

地域と学校が一つに～地域の資源と昔話を教育活動へ～

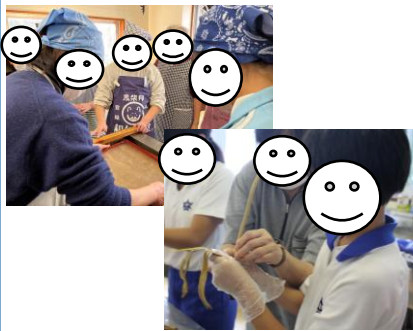
キーワード 地域学校協働活動 / コミュニティ・スクール / 外部人材活用

取組概要

学校と地域との連携・協働により、地域の資源「ホップ」を活用した授業にPTAが参画し、子どもたちと共に学んでいる。また『遠野物語』の話者の出身地である事を踏まえ、「子ども語り部」活動の支援を行っている。

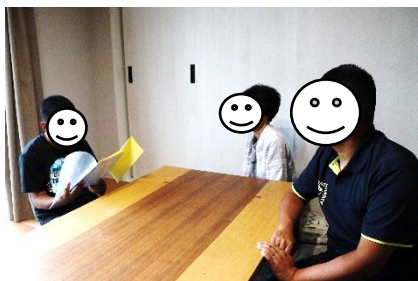
取り組みの詳細

ホップ和紙を活用した活動



- ・遠野市はビールの原料であるホップの栽培面積が日本一であり、学区内に圃場（ほじょう）が点在。地域の誇りのひとつ。
- ・総合的な学習の時間を活用し、ホップ和紙による卒業証書づくりに取り組んでいるが、その作業にPTAも参画。児童とともに、地域の資源を学んでいる。
- ・地域団体「ホップ和紙の会」や学校支援ボランティア「おぐないさまーず」と連携し実施。

『遠野物語』を活かした活動



- ・遠野物語の話者「佐々木喜善」の出生地であることを踏まえ、ふるさと教育の一環として「河童の恩返し」「オシラサマ」などの遠野物語を1学年で1話、卒業までに6話覚えることを学校で取り組んでいる。
- ・暗唱に向けて、週末に音読として取組が行われ、保護者や祖父母が見守りや助言等を行っている。

成果

- ・ふるさと教育への参画を通じ、地域の資源の再認識や地域への愛着を親子で育むことができています。
- ・コミュニティ・スクールの仕組みの有効性が浸透し始めている。

課題や今後の取り組み

- ・少子化に伴う会員数の減少。
- ・地域の社会教育資源を有効的に活用する仕組みの構築。

その他の取り組み紹介

- ・コミュニティ・スクールや学校評価と連動した家庭教育支援活動の実施。
- ・小、中のPTAが連携し、学区内の集団資源回収活動の実施。
- ・運動着の再利用活動を行い、資源の活用と会員の費用負担軽減に寄与。

所在地

岩手県遠野市土淵町

全校生徒数

65名

地域の特徴

「永遠の日本のふるさと」を掲げており、初めて訪れるのにどこか懐かしい、原風景を残すまちである。さまざまな神様やカッパ、ザンキワラシなどが登場する不思議な物語がたくさん残っている。

学校の特徴

令和8年度に150周年を迎える伝統ある学校である。遠野の文化や歴史を語り継ぐ土壌があり、市内で行われている様々なイベントで「子ども語り部」として児童が昔話を披露している。また、土淵町で盛んな「ホップ栽培」を教育活動に取り入れている。

組織構成

○役職
 会長（1名）、顧問（1名）、副会長（2名）、理事（3名）、事務局長（1名）、会計（1名）、監査（2名）、学年PTA会長（各学年から選出）、地区会長（行政区に準じた7地区）、運営委員から構成される。
 顧問は学校長及び前PTA会長、事務局長は副校長が務める。

担当課：岩手県教育委員会
 生涯学習文化財課